

Subject: 【2012年8月号】MASPメールマガジン13号発行
From: NPO法人技術データ管理支援協会 <info2@masp-assoc.org>
Date: 2012/08/10 12:51
To: MASP_Publics_Members@yahogroups.jp
CC: kabumaru <kabumaru@sky.sannet.ne.jp>

技術データ管理支援協会（MASP）会員各位
セミナー参加者各位

=====
■ MASPメールマガジン 2012年8月号 ■ 2012年8月10日（月）発行
=====

目次：・お知らせ
・ひとこと NPO法人技術データ管理支援協会理事長 大塚 修彬
・本の紹介 NPO法人技術データ管理支援協会運営委員 奥村 直正
・解説 NPO法人技術データ管理支援協会理事 手島 歩三
・MASP活動報告
・事務局便り

=====
【お知らせ】詳細・お申し込みは、
当NPOのHP <http://masp-assoc.org/> よりお願いします。
=====

<8月度「進化可能な生産情報システム研究会」（第5回）開催>
日時：8月21日（火） 13:30～17:00
場所：港区立三田いきいきプラザ（旧称・三田福社会館）
テーマ：中小企業の集団が円滑にビジネス活動を行うために、どんな情報技術、
情報システム要素があればよいかを検討
費用：無料

<8月度「いまさら聞けない生産管理懇談会」開催>
日時：8月27日（月） 14:00～17:00
場所：港区立三田いきいきプラザ（旧称・三田福社会館）
テーマ：生産管理の全体像～生産情報システム・アーキテクチャ入門
費用：無料

<9月度「進化可能な生産情報システム研究会」（第6回）開催>
日時：9月10日（月） 13:30～17:00
場所：港区立三田いきいきプラザ（旧称・三田福社会館）
テーマ：検討中
費用：無料

<9月度「いまさら聞けない生産管理懇談会」開催>
日時：9月19日（水） 14:00～17:00
場所：港区立三田いきいきプラザ（旧称・三田福社会館）
テーマ：検討中
費用：無料

<9月度「概念データモデル設計法入門（基礎知識編）」開催>
日時：9月26日（水） 14:00～17:00
場所：港区立三田いきいきプラザ（旧称・三田福社会館）
費用：無料

<10月度「概念データモデル設計法入門（基礎知識編）」開催>

日時 : 10月10日(水) 14:00~17:00

場所 : 川崎市産業振興会館第2研修室

費用 : 無料

(注: 9月26日開催「概念データモデル設計法入門(基礎知識編)」と内容は同じです)

<10月度「概念データモデル設計法入門(演習編)」開催>

日時 : 10月24日(水)、25日(木) 9:30~18:10

場所 : 川崎市産業振興会館 第2研修室

費用 : 有料(MASP会員 1万円、非会員 3万円)

<経営情報学会「組織・人・情報とイノベーション研究部会」(I&OHI研究会)>
9月度定例研究会、後援: NPO法人 技術データ管理支援協会

■第3回シンポジウム『脳の進化からみるIT活用の問題点

--イノベーション方法のイノベーション: Evolution not Revolution-
(仮題)』のご案内

■開催日時 : 2012年9月29日(土) 14:00~17:30

■場所 : 専修大学神田校舎 神田キャンパス7号館3階の731教室

http://www.senshu-u.ac.jp/univguide/campus_info/kanda_campus/index.html

東西線・半蔵門線・都営新宿線: 九段下出口5より3分

■シンポジウム概要

今回ご報告いただく両名は、NPO法人 技術データ管理支援協会で、今年度初めから進化可能な生産情報システムを研究してきました。その成果として脳の進化を利用した情報システムの考え方を本シンポジウムでご提案し、皆様のご批判を仰ぎたいと考えます。

まず最初に脳科学の視点から情報技術批判を説明し、次いで実際の適用事例といたしまして超生活者視点のサービスプラットフォーム構想を説明して頂き、進化可能な情報システムとはどのようなものと考えているかを理解して頂いた上で、オープンディスカッションとして「イノベーション方法のイノベーション: Evolution not Revolution」に適うものかどうかを議論したいと考えています。

=====
【ひとこと】 NPO法人 技術データ管理支援協会 理事長 大塚 修彬
=====
進化型情報システム構築のススメ

2000年前後にはナレッジマネジメントがブームでダベンポートが一番の権威者として活躍していた。その当時、経営情報学会の研究会の後の座談で、有名私立大学の情報工学の教授が「ダベンポートはナレッジマネジメントが重要と主張しているけれど、情報システムと何が違うのか判らない」と指摘されていた。結局ダベンポートも色々ナレッジマネジメントシステムを提案したけれども最終的にはナレッジをもっている人を見つけること(ノウフウ)が一番重要だと著書に書いていた。その本では管理職や管理スタッフが対象とされ現場は対象ではないようであった。しかし、一番ナレッジが必要なのは現場だと私は思った。その後、世の中はデータウェアハウスからビジネス・インテリジェンスが主流となり、現在は検索エンジン主導の趣があるビッグデータが流行っている。現場は相変わらず恩恵を受けていないと感じる。

昨年、現場に目を向けた情報システムがスケジューリング学会のシンポジウムで発表された。それは当NPO法人と大企業B社の共同研究が実を結んだFBOM・なりゆきスケジューラというパッケージである。このパッケージはカスタマイズ容易な構造になっている。最初、現場は自分たちのナレッジをこのパッケージのデータベースにどう表現するか(カスタマイズ方法)を学習する必要がある。これは利用者の手による進化型プロトタイプング手法である。今回の事例では半年間、その学習にかかり、それが

過ぎると自分たちのナレッジを活かすには情報システムをこう変えて欲しいというカスタマイズ要求が出て来たそうである。この情報システムとの対話を通して自分たちの現場もカイゼンし、1年後には生産リードタイムが当初の三分の一になったそうだ。今でも情報システムへの改善要求が提出され、情報システムを使いながら自分たちのナレッジを進化させる努力を続けているようである。

現在のシステム構築方法で一般的である要求分析・要求定義の方法論ではこのような効果をもたらさないであろう。その原因はシステム開発方法論が進化型になっていないからである。システム開発方法論が進化型になっていないなら、できあがる情報システムも進化が困難な硬直した代物になってしまう。

当NPO法人の研究課題は進化型プロトタイプングから企業間にまたがる情報システムを進化させる仕組みに移った。最近の脳科学の研究成果を取り入れ企業間の意思疎通を支える進化可能な情報システム構造を設計しようとする「進化可能な生産情報システム」研究会で鋭意研究中である。成果が待ち遠しいものである。

=====
【本の紹介】 NPO法人 技術データ管理支援協会 運営委員 奥村 直正
=====
ミセス・レリス『幻のアフリカ』平凡社ライブラリー 2010年7月

不思議な書物である。

著者は、ミシェル・レルスという1900年から1990年まで生きたフランスの詩人、民俗学者である。彼がシュルリアリズムと決別して出掛けた1931-33年のアフリカの調査旅行の公的な報告書で、1936年に発刊されたが、46年には発刊禁止とされ、しばらくはフランスでも読めない状態が続いていた。86年になり再刊された、という背景を持つ。

この本は、日本では、フランスでの再刊に先立って、1971年に第一部が翻訳刊行された後、1995年に一、二部を通しての全訳が単行本として出た。その後しばらく入手困難になっていたが、昨年新書版として再刊された事から、入手が容易になっている。（新書版は千ページを超えるものとなっており、黒いオブジェとも言える存在感である。）

ここから構造主義が生まれてくる契機ともなつたとすれば、概念形成の謎に向けての探索の旅としての、先人ネルヴァルの『東方紀行』を近代での源流とする遙々なる系譜は、私達の探求にも繋がっている、と言っても過言ではないかも知れない。

このような一見、製造ともITとも対極にあるような本を読む事により、そこにも自分達の活動との接点を感じ取る事は人生の楽しみのひとつである。

今回は日本で出たこの三冊を場面に応じて相互参照しながら読み直した。三冊はそれぞれ特徴のある装丁や文字組みで、まったく違う感覚を与えてくれる。これもネット時代に可能になった読書の楽しみ方のひとつであるかも知れない。

ネルヴァルの『東方紀行』、レーモン・ルーセルの『アフリカの印象』も合わせ読んでみると面白いだろう。

さらに一冊、村上陽一郎の『動的世界像としての科学』も挙げておく。SCMのモデルも“動的世界像”がもっと普及するとよいのであるが、・・・。

=====
【解説】 NPO法人 技術データ管理支援協会 理事 手島 歩三
=====

提供している情報技術とサービスの全体像

技術データ管理支援協会は「日本の製造業の長所を強化するための情報技術」の整備に1998年から取り組んできました。その後の研究開発と実践の結果として、現在、MASPアーキテ「企業の進化を支える」情報技術をいくつか提供できるようになりました方向に進化しています。

今月から協会が提供しているそれらの情報技術とサービス・プログラムについて解説します。今号は全体の概要を示します。

協会が整備した情報技術は「生産管理技術」、「生産情報システム用ソフトウェア部品」、「情報システム構築方法」からなっています。

これらの技術によってを提供、して日本のものづくりに携わる企業の情報システムはを「しなやかに変化に対応できる構造」に進化できるとさせていただきたく思っています。既存の情報システムを捨てることは主張しません。良いところを活かしながら、変更・拡張・先祖帰りが容易な構造に段階的に変えて行くことをお奨めします。

技術データ管理支援協会が持つ技術の中で役に立つ部分を選んで利用して下さい。すべてを導入しなければならないとは考えていません。良い技術をお持ちであれば、それと組み合わせてください。できればその技術を協会に開示して、多くの方が利用できるようにして下さいなら、望外の幸いです。MASPの情報技術の多くはそのような方々のご厚意の賜からなっています。

今後、次のA~Cの順に技術データ管理支援協会が提供する情報技術とサービス・プログラムを解説していきます。

A. 情報システム構築方法

(A-1) 概念形成と問題解決 (ConForM)

(A-2) 概念データモデル設計法 (CDM)

(A-3) ソフトウェアJIT

(A-4) データ構造に基づいてプログラム構造を導きだすプログラミング技法 (JSP)

ここで言う「構築」は新規開発だけではありません。変更・拡張・先祖帰り、統合・分離などビジネス情報システムを作り、維持する活動を指しています。ビジネス情報システムの使命は「ビジネスに関与する方々の意思疎通を支援すること」であると考えています。

B. 生産情報システム用ソフトウェア部品

(B-1) 「ものづくり技術データ」管理エンジン “FBOM”

(B-2) 供給計画エージェント

(B-3) なりゆきシミュレータ

ソフトウェアはビジネス情報システムにとって重要な構成要素です。そのソフトウェアが肥大して品質低下し、変更・拡張が困難になり、ビジネス改革の足枷となるだけでなく、費用面でも大きな負担になっています。2006年に協会はこの問題解決のための実証研究に取り組み、現在その成果物はソフトウェア部品として工場で利用されています。

協会が提供するソフトウェア部品は、製造ビジネスに必要なマスターデータを管理する「ものづくり技術データ」管理エンジンと、それを参照して作動する業務用ソフトウェア「なりゆきスケジューラ」です。なりゆきスケジューラは「供給計画エージェント」と「なりゆきシミュレータ」で構成されています。

C. 生産管理技術

(C-1) 日本型マス・カスタマイゼーション

(C-2) 「ものづくり技術データ」管理技術

(C-3) 生産管理技術 (製造ビジネス・アーキテクチャ) の使い分け支援

(C-4) スケジューリング技術

科学・技術の発達に伴いの本のものづくりの状況が急速に変化しています。製品構

造や製造プロセスは複雑化しています。日本のものづくり技術は優秀です。しかし、生産管理となると人手に頼る面が多かったため、現在では管理者の手に余る状況になっています。顧客志向を唱えながら、新興国に比べて意思決定が遅く、納期も長いなど顧客から見放されかねない弱点を抱えています。

発達した情報技術を活用し、日本のものづくりの長所を強化・活用するよう生産管理を行うことが望まれます。優れた技術・技能を持ち真面目に働く従業員、を活かす業務連携の仕組みを構築するなら、労務費の安い新興国とは異なる強みを発揮できると考えています。

なお、これらのサービス・プログラムについては、技術データ管理支援協会のWebサイトにも掲載されていますので、興味ある方は下記サイトをご覧ください。

<http://masp.weblike.jp/webroot/uploads/masp-service-program.pdf>

=====
【MASP活動報告】
 =====

2012年 4月度活動

- ・次期研究会の設立準備会開催のお知らせ 4月18日
 ～製造ビジネスの今後と開発・生産・サービスのあり方を検討～
- ・いまさら聞けない生産管理懇談会 第10回 4月23日
 テーマ「MRPシステムの仕組みと限界」

2012年 5月度活動

- ・進化可能な生産情報システム研究会（仮称） 5月14日
 テーマ「製造ビジネスを進化可能にするための枠組みと要件」
- ・いまさら聞けない生産管理懇談会 第11回 5月28日
 テーマ「生産管理方式の種類と選択のポイント」
- ・総会&定例研究会 5月24日
 講演1.「サプライチェーンを根本から見直そうーそのための視点について」
 講師： 高橋史人氏 MS LABO マネージメント&システム研究所
 講演2.「JFEスチールにおけるITによる業務改革 ～継続的サイクルを回す
 基盤を整備する～」
 講師： 西川 廣氏 株式会社エクサ代表取締役副社長

2012年 6月度活動

- ・進化可能な生産情報システム研究会 第3回 6月18日
 テーマ「サービスビジネスとはどういうことなのか。
 製造業はサービスビジネスと考えられるのか」
- ・いまさら聞けない生産管理懇談会 第12回 6月25日
 テーマ「生産管理の全体像 ～製造ビジネスとの関係を解説・討論」
- ・初めての生産スケジューリング～生産管理の基礎 6月27日

2012年 7月度活動

- ・概念データモデル設計法入門（解説編） 7月 9日
- ・進化可能な生産情報システム研究会 第4回 7月18日
 テーマ「情報システムの進化と脳科学」
- ・基礎から学ぶ生産管理入門 7月24日
 ～現場の課題と解決策を事例で解説生産管理入門～

=====
【事務局便り】
 =====

メルマガを4ヶ月程、お休みしてしまいました。再開に当たって、理事長から、継続する事に意味があり、停止してしまったら、今まで多少でも目を通して頂いた方に

大変失礼に当たると、お叱りを受けました。この4ヶ月間、政治の世界でも、いろいろな変化が起こっていますが、当NPOでも、いままでになく、研究会やイベントが活発に行われました。今月号から、多少リニューアルと言う事で、連載記事として、技術データ管理支援協会のサービス説明や取り組みの解説を行っていきます。混迷を深める世の中においては、しっかりした考え方、哲学をバックにものごとを考えて行く必要があります。当協会の取り組みが読者の方の多少にでも参考になればと思う次第です。（柿谷）

本メルマガ並びに技術データ管理支援協会へのお問い合わせは

info@masp-assoc.org にお願ひ致します。

大変お手数ですが、お問い合わせの際は、必ずお名前をご記入ください。

MASP活動を広めるため、お知り合い方にも、紹介を兼ね転送をして頂きたく、宜しくお願ひします。

MASPネット <http://masp-assoc.org/>

【発行】 特定非営利活動法人 技術データ管理支援協会
編集責任者 大塚修彬 編集委員 柿谷常彰、安保秀雄

技術データ管理支援協会

（略称：MASP = Manufacturing Architecture for SeriesProducts）は、
「日本のものづくり（多品種少量で見込みの生産）を強化する」ための
情報技術整備・支援に取り組んでいる非営利団体です。

=====